

キャリア教育と資格教育の関連に関する研究

中島 禎志・栗田るみ子

要 旨

城西大学経営学部では、学部開設以来、キャリア教育の一つとして長期休業中に日商PC検定試験の対策講座を行ってきた。本稿では、このような講座を行うことの意義を参加学生へのアンケートを通して分析した。分析は、経済産業省が策定した「社会人基礎力」の能力要素に照らして行った。

キーワード：社会人基礎力，資格試験，キャリア教育

1 はじめに

近年、大学教育の中で、キャリア教育は重要性を増している。キャリア教育の中で資格取得の支援が多くの大学で行われている。その形態は様々であり、正課の中に資格取得を組み入れ、資格の取得が単位に結び付くような形態や、大学の設置するキャリアセンターなどが主催してエクステンションプログラムとして実施される形態などがある。一方で、資格の取得を大学がサポートすることの意義を問う声もある。本稿では、城西大学経営学部で夏季休業中に行われた日商PC検定試験の特別講座に参加した学生にアンケートを採ることで、資格教育の意義を研究した。

2 キャリア教育と資格教育

2-1 資格教育と大学教育

大学教育の中でのキャリア教育は、大学設置基準第42条の2で「大学は、当該大学及び学部等の教育上の目的に応じ、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるよう、大学内の組織

間の有機的な連携を図り、適切な体制を整えるものとする。」と位置づけられ、学生の自立支援としてキャリア教育が謳われている。キャリア教育の具体的な内容は、大学によって様々であるが、例えば1年次からのキャリアガイダンスやインターンシップ制度の拡充、資格取得の支援などが行われている。また、多くの大学でキャリアセンターが設置され、学生への包括的な就職支援の体制を取っている。

城西大学でもキャリアセンターを設置し、手厚い就職指導やインターンシップ、資格取得の支援を行っている。特に、城西大学経営学部では、ミニマム・スタンダード（基礎的資格取得目標）として、

- 日商または全経簿記3級
- 日商PC検定試験（データ活用）Basic
- TOEIC 400点

を掲げ、学生全員のこれらの資格の取得を目指している。

資格取得によって単位を認定することは多くの大学で行われている（参考文献1）。資格による単位認定には、大学にとって2つの側面があると塩川、長谷部は述べている（参考文献2）。それによると、第1の側面は、ある資格の取得が基礎学力の一部を有していることの担保となるものであり、各大学がディプロマポリシー等で求めている基礎学力は、資格によって代替できるものではないが、大学の求める学力のある部分を有しているなら、この資格は取得可能、ということと言えるとしている。そこで、そのような資格の取得に対して単位を認定することで、大学における同等の課程科目学修に充てる時間をほかの学修に役立てられるといった、履修の効率化が図られるとしている。

第2の側面は、学生の学習意欲の喚起・向上である。日本の大学生の学習時間、特に授業外学習の時間が非常に少ないことが問題としてよく挙げられる。その理由の一つに学習意欲の低さがあると考えられる。一方で資格取得は、

- ① その達成基準が公平で明確であること
- ② 達成したことを第三者に容易に示せること

から、学習に対する動機付けがしやすいという特徴がある。また、授業外学習の時間が増え日常的な学習習慣が身に付くこと、取得による達成感が更なる学習意欲の向上につながることも期待できるとしている。

本稿では、ここで述べられている第2の側面について、学生にとってどのような効果があるのか経済産業省の「社会人基礎力」で上げられている能力を目安に、2022年9月に行った日商PC検定試験特別講座の受講学生にアンケートを採ることで具体的に明らかにした。

2-2 社会人基礎力

経済産業省の掲げる社会人基礎力とは、キャリア教育の一環として、2006年に「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」を提唱したもので、3つの能力(12の要素)からなるもので、具体的には以下のものである(参考文献3)。

能力1 前に踏み出す力(アクション)

主体性……物事に進んで取り組む力

働きかけ力……他人に働きかけ巻き込む力

実行力……目的を設定し確実に行動する力

能力2 考え抜く力(シンキング)

課題発見力……現状を分析し目的や課題を明らかにする力

創造力……新しい価値を生み出す力

計画力……問題の解決に向けたプロセスを明らかにして準備する力

能力3 チームで働く力(チームワーク)

発信力……自分の意見をわかりやすく伝える力

傾聴力……相手の意見を丁寧に聞く力

柔軟性……意見の違いや立場の違いを理解する力

状況把握力……自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力

規律性……社会のルールや人との約束を守る力

ストレスコントロール力……ストレスの発生源に対応する力

さらに、2017年には、人生100年時代や第4次産業革命を迎えつつある現代において、社会人基礎力はその重要性を増すとともに新たな視点・切り口が求められるようになり、今後社会との関わりが長くなるであろう個人が社会と関わり、生涯活躍し続けるために必要な力として「人生100年時代の社会人基礎力」が定義された。これは、人生100年時代の社会人基礎力の、3つの能力・12の能力要素を内容としつつ自己認識とリフレクション(振り返り)を通して目的・学び・統合のバランスを図ることで、能力を発揮しキャリアを切り拓くのに役立つことが期待されたものである。

「人生100年時代の社会人基礎力」は、これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション(振り返り)しながら、学び(何を学ぶか)、統合(どのように学ぶか)、目的(どう活躍するか)のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要と位置づけられる。また、経済産業省は、2018年に「人生100年時代の社会人基礎力」の「気づき」の設定を行い、個人が「自ら持つ・

	就学前教育 幼稚園教育要領 保育所保育指針	初等中等教育 学習指導要領	高等教育 大学設置基準等	教育と社会との関係の接続 (これまでの重点)	新人 社会人 社会人基礎力 (2006)	中堅 社会人	中高年 社会人
何を学ぶか 【学び】	・学びに向かう力が ついているか	・主体的に自己を 発揮しながら学 びに向かう態度 はついているか	・どんな専門分野 を修めて社会で 活躍するための 礎とするか		・自らが付加価値 を生み出すため の学びはなにか ・学びの広さや深 さを得られるか	・強みを伸ばし、 弱みを克服する 学びはなにか ・社会や技術の 変化に対応す るための学びは なにか	・持続的に活躍し 続けるために必要 な学びはなにか ・経験等を引き継 ぐための学びはな にか
どのように 学ぶか 【統合】	・大人との触れ合 いは十分か ・他者との関わりは 十分か	・学校種間の連携 や交流は十分か ・共に尊重し合い ながら協働して 生活していく態度 はついているか	・年代、地域、文 化などを超えた多 様な人と関わっ ているか		・多様な人と出会 い、視野を広く 持ち、多様な機 会を得ているか	・多様な人との関 係性を構築し、 価値の創出に 向けて組み合わ せているか	・多様な人との関 係性を活用し、 活躍の場や活動 の領域をこれまで より広げているか
どう 活躍するか 【目的】	・よりよい生活を営 もうとしているか	・自分のよさや可 能性を認識して いるか	・得手不得手を踏 まえて、企業・社 会とどのように関 わりたいか		・組織や家庭との 関係でどんな自 分でありたいか	・自己実現するた めにどのような行 動が必要か	・これまでの経験 を踏まえ自らが社 会に提供できる 価値はなにか
3つの能力 12の能力要素	リフレクション（振り返り）				リフレクション（振り返り）		
	・主体的・対話的に深い学び ・キャリア教育の充実			・多様な経験の積み重ね ・リフレクションと多様なフィードバックの積み重ね			
	教育や体験活動を通じた育成／育成の支援			仕事や地域での実践を通じた深化／研鑽環境の整備			

(引用) 経済産業省：我が国産業における人材力強化に向けた研究会報告書(参考文献4)

図1 「人生100年時代の社会人基礎力」の「気づき」の設定

持たざる能力や体験」を振り返るための、ライフステージの各段階で意識することが求められる各項目における「問いかけ」を示し、振り返りを行うことが重要であるとして具体化した(図1)。

2-3 資格教育と検定の実施事例

日商 PC 検定試験は、企業実務において IT (情報通信技術) を利活用する実践的な知識、スキルの修得に資するとともに、ネット社会に対応した新たなビジネススキルの育成を図る目的で創設されたものである。この試験は、主としてビジネス文書の作成、取り扱いを問う「日商 PC 検定試験(文書作成)」, 主として業務データの活用、取り扱いを問う「日商 PC 検定試験(データ活用)」, および目的に応じた適切で分かりやすいプレゼン資料を作成できるかを問う「日商 PC 検定試験(プレゼン資料作成)」の三分野で独立した試験として実施されている。「日商 PC 検定試験(文書作成)」と「日商 PC 検定試験(データ活用)」は1級から3級と Basic からなり、「日商 PC 検定試験(プレゼン資料作成)」は1級から3級からなる試験である。日商 PC 検定試験の特別講座は、日商 PC 検定試験(データ活用) Basic の延長として、日商 PC 検定試験の3級の全科目の取得を目指すものとして、日商 PC 検定試験の特別講座を学部開設以来、行ってきた。しかし、この特別講座も、コロナ禍により、2020年度は中止となり2021年度は規模を縮小して行わざるをえなかった。

2022年度は、大学の授業の対面を基本とするという方針をもとに2022年9月14日から9月17日の4日間、通常どおり日本商工会議所より講師を招聘し開催した。参加を申し込んだ学生

は 27 名だったが、参加した学生は 21 名でその内訳は表 1 のとおりだった。

表 1 参加者内訳

2019 年度入学生	15 名
2020 年度入学生	3 名
2021 年度入学生	3 名

各日に行われた内容は表 2 に示すとおりで、受講者全員が日商 PC 検定 3 級の各科目に合格することを目標としたものだった。

表 2 講座日程

日	午前	午後
9 月 14 日	検定に必要なデータサイエンスデータの収集、加工、発信	環境設定説明、文書講座
9 月 15 日	文書講座・文書作成検定試験	プレゼン講座
9 月 16 日	プレゼン講座・プレゼン資料作成検定試験	データ講座
9 月 17 日	データ講座	データ講座・データ活用検定試験

検定試験の実施回数は、試験の実施数は、延べ 23 回となった。参加者の中には、いくつかの科目についてすでに 3 級に合格している学生もいたが、各科目において、1 回の挑戦では不合格だった学生もいた。しかし、そのような学生も挫けることなく再挑戦した結果、合格を勝ち取ることができた。結果として、本講座の目標であった、受講者全員の日商 PC 検定試験 3 級の全科目全員合格を達成することができた。

3 アンケートの結果と分析

3-1 アンケートの概要と選択式質問項目の分析

この特別講座を通して学生はどのようなことを感じたのかを講座の終了後に受講学生に対しアンケートを実施し分析したので、その結果を報告する。なお、アンケートに回答した学生は 21 名中 14 名で内訳は表 3 の通りだった。

表 3 アンケート回答者一覧

2019 年度入学生	8 名
2020 年度入学生	3 名
2021 年度入学生	3 名

各質問項目と結果は次のとおりだった。

●質問1：PC検定の資格が必要だと思ったきっかけは何ですか。

回答は、「就職に有利」「スキルを身に付ける」「PCの技術を証明する」「将来役に立つ」「その他」から択一式とした。

結果は、図2のようにまとめられる。なお、「その他」を選んだ学生はいなかった。このことから、学生たちはPCの技術やスキルを身に付けることを期待していることがわかる。

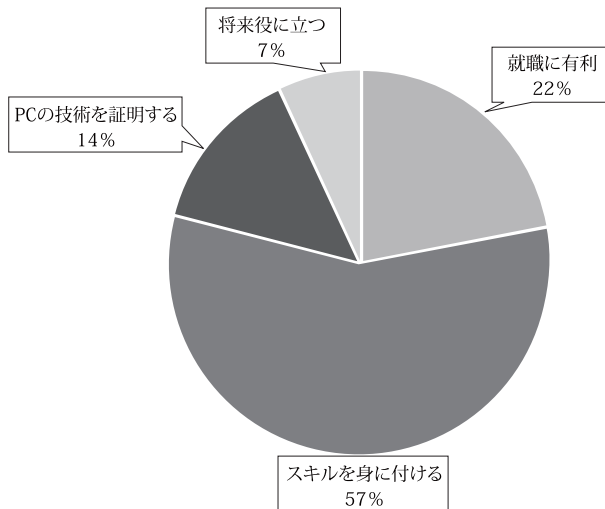


図2 質問1：PC検定の資格が必要だと思ったきっかけは何ですか。

●質問2：日商PC検定試験の各科目について難しいと感じたこと（複数回答可）

回答は、「入力スピード」「専門用語の理解」「操作」「時間制限」「その他」を択肢とした。結果は、図3のようにまとめられる。なお、「その他」を選んだ学生はいなかった。この設問からは、学生は科目による難易度の差を感じていないことがわかる。なお、一般に日商PC検定試験の3級においては、難しいと言われる順に

1. データ活用
2. 文書作成
3. プレゼン資料作成

とされる。このような結果となった理由は、各科目はMicrosoft OfficeのWord, PowerPoint, Excelをもとにした試験であるため、短い期間での集中講座とすることで、各アプリケーションソフトの連関性が学生に実感できるようになっていることによるものと思われる。

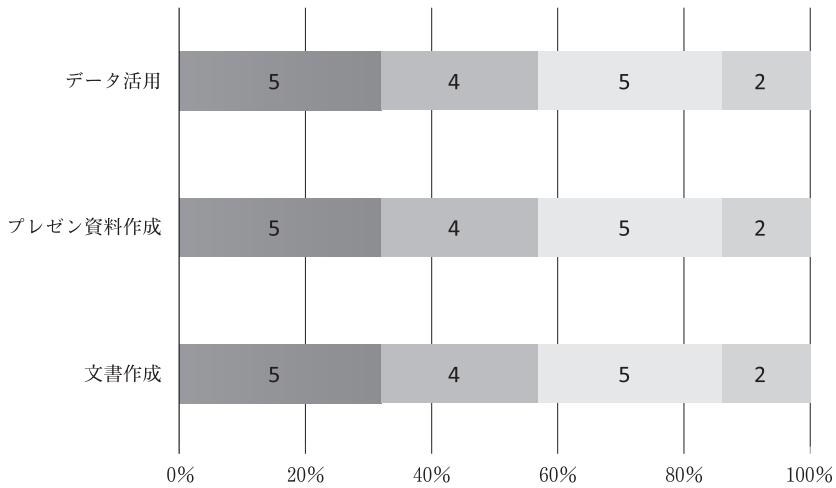


図3 質問2：日商 PC 検定試験の各科目について難しいと感じたこと（複数回答可）

●質問3：検定試験の全体を通じてストレスと感じたこと（複数回答可）

回答は、「入力のスPEED」「専門用語の理解」「操作」「時間制限」「その他」を選択肢とした。結果は、図4のようにまとめられる。なお、「時間制限」と「その他」を選んだ学生はいなかった。この結果からは、主に操作に関してストレスを感じていることが伺える。様々な場面で、今回の検定試験で対象となったオフィス・アプリケーションを操作する機会があったものと思われるが、検定試験レベルでの操作の機会は無かったためこのような結果になったものと思われる。

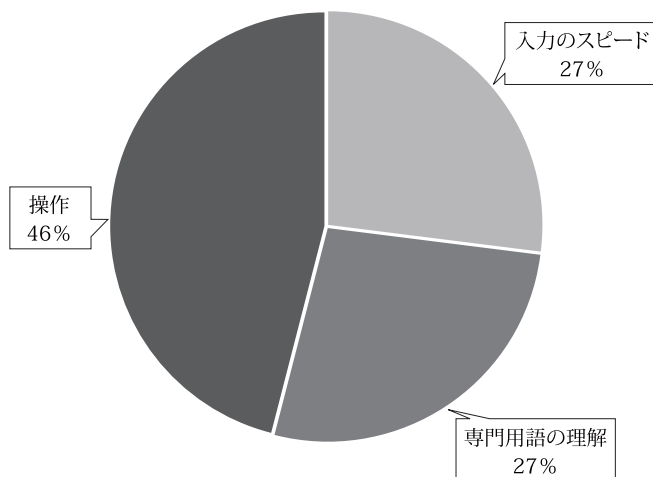


図4 質問3：検定試験の全体を通じてストレスと感じたこと（複数回答可）

- 質問4：「社会人基礎力の以下の項目について本講座を通じて育成されたか否かについて質問です。」として、社会人基礎力に関連する質問を行った。設問は、「物事に進んで取りくむ力は」「目的を設定し確実に行動する力は」「他人に働きかけ、巻き込む力は」「現状を分析し目的や課題を明らかにする力は」「課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力は」「新しい価値を生み出す力は」「自分の意見をわかりやすく伝える力は」「相手の意見を聴く力は」「ストレスコントロール力は」とした。

この設問は、社会人基礎力として掲げられている力のうち、「能力1 前に踏み出す力（アクション）」の全てである「主体性」「働きかけ力」「実行力」、 「能力2 考え抜く力（シンキング）」の全てである「課題発見力」「創造力」「計画力」、 「能力3 チームで働く力（チームワーク）」のうち「発信力」「傾聴力」「ストレスコントロール力」に関するものである。

回答は、「とても育成された」「まあまあ育成された」「どちらともいえない」「あまり育成されない」「まったく育成されない」の選択肢から一つ選ぶ形式をとって調べた。なお、「能力3 チームで働く力（チームワーク）」の「柔軟性」「状況把握力」「規律性」については、講座の性質から除外した。

結果は表4および図5にまとめた。これらの表およびグラフから学生たちは本講座への参加を通して、「主体性」「実行力」「計画力」は全ての学生が育成されたと実感している。一方で、「働きかけ力」「発信力」「課題発見力」「ストレスコントロール力」については、「どちらでもない」「あまり育成されない」「まったく育成されない」と回答した学生がいた。とくに、「働きかけ力」「発信力」「ストレスコントロール力」については全く育成されなかった

表4 質問4：「社会人基礎力の以下の項目について本講座を通じて育成されたか否かについて質問です。」

(単位：%)

	とても育成された	まあまあ育成された	どちらともいえない	あまり育成されない	まったく育成されない
物事に進んで取り組む力は	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0
他人に働きかけ、巻き込む力は	42.9	28.6	14.3	7.1	7.1
目的を設定し確実に行動する力は	57.1	42.9	0.0	0.0	0.0
現状を分析し目的や課題を明らかにする力は	50.0	35.7	7.1	7.1	0.0
新しい価値を生み出す力は	50.0	42.9	7.1	0.0	0.0
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力は	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0
自分の意見をわかりやすく伝える力は	42.9	28.6	21.4	0.0	7.1
相手の意見を聴く力は	50.0	42.9	7.1	0.0	0.0
ストレスコントロール力は	35.7	35.7	21.4	0.0	7.1

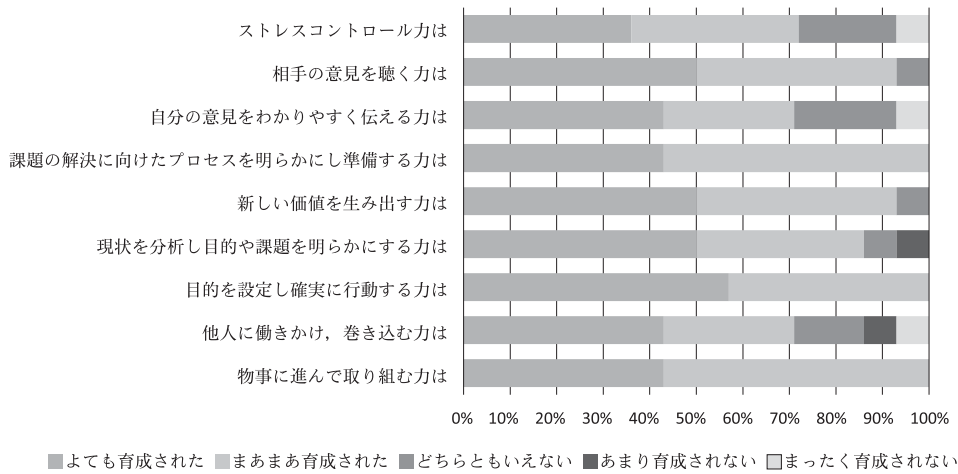


図5 質問4：「社会人基礎力の以下の項目について本講座を通じて育成されたか否かについて質問です。」

と感じた学生がいた。この学生は、講座を受動的に受けていたことが伺える一方で、ストレスは全く感じないか、感じたとしても特にコントロールする必要のないものであったことが伺える。

以上から総じて、本講座を通して学生は社会人基礎力を形成する力の一部のさらなる発達を、本講座を通して促されたことが伺える。

- 質問5：「今後、日商PC検定2級講座があれば受講したいですか。」

回答は、「はい」「考え中」「いいえ」から択一式とした。

結果を図6にまとめた。この結果からは30%ほどの学生が上位級への意欲をもっているこ

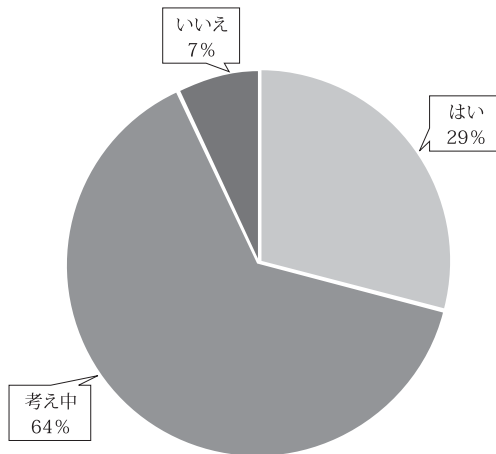


図6 質問5：「今後、日商PC検定2級講座があれば受講したいですか。」

とが伺える一方で、本講座の受講で意欲が飽和してしまった学生もいることが伺える。

3-2 自由記述の分析

- 質問6：「その他、日商PC検定講座について感想をお聞かせください。」

質問6については、自由記述形式での回答をしてもらった。この自由記述の回答を行った学生は9名であった。この結果をKH Coder 3（参考文献6）を用いて共起ネットワークを作成したものを図7に掲げる。

一般に、自由記述のようなテキストデータを分析する方法は様々あるが、共起ネットワークは、最も強力な分析手法の一つであり、直感的で分かりやすいという点で優れている。共起ネットワークとは、各文書で出現する抽出語のうち、「距離」が近いか遠いかを計算し図示したものである。共起ネットワークでは「距離」を「エッジ」と呼び線の太さで表され、抽出語は「ノード」として表現され、「ノード」の面積は抽出語の頻度を表す。なお、距離の測り方としてはJaccard係数、Cosine係数、Euclid距離などがある。特に、Jaccard係数 $J(A, B)$ は集合AとBに対し、

$$J(A, B) = \frac{|A \cap B|}{|A \cup B|}$$

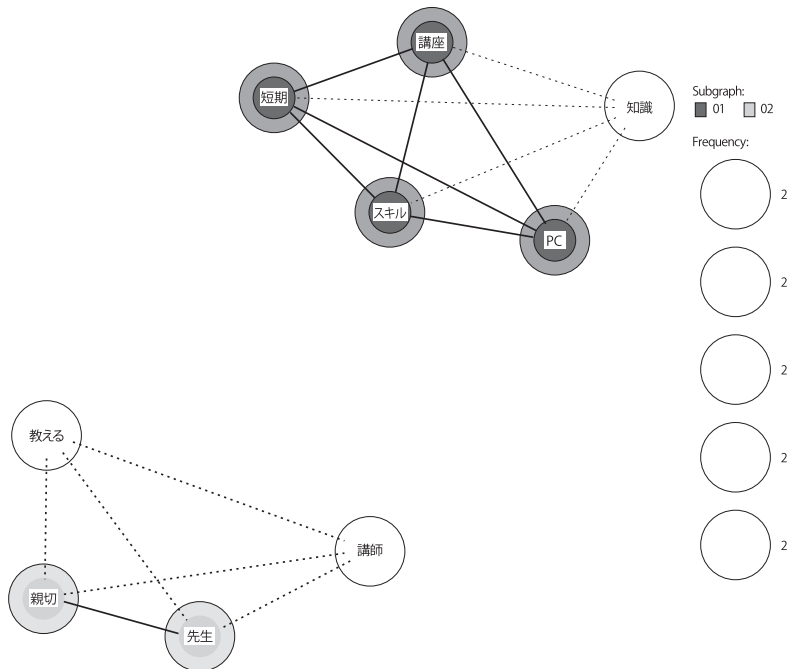


図7 質問6：「その他、日商PC検定講座について感想をお聞かせください。」の共起ネットワーク

と定義される。なお、 $|A|$ は集合 A の要素数を表し、 $A \cup B = \emptyset$ のときは、 $J(A, B) = 1$ とする。したがって、Jaccard 係数は 2 つの集合に含まれている要素のうち共通要素が占める割合を表しており、係数は 0 から 1 の間の値となる。Jaccard 係数が大きいほど 2 つの集合の類似度は高い（よく似ている）といえる。そこで、各文書の抽出語の集合に対し、Jaccard 係数を考えることで、その文書の類似度がわかる。今回は、Jaccard 係数を距離として共起ネットワークを描画した。

この図から、学生の記述は、教員に関するものと PC スキルに関するものに分けられる。教員に関する記述では

- とても親切に教えてもらい、この先生でよかったですと思いました。感謝でいっぱいです。といったもので、教員への感謝を述べるものだった。また、PC スキルに関するものは、
 - 短期講座を通じて PC の基本的なスキルや知識を身に付けることができたので良かったです。これをきっかけにもっと PC のスキルを向上させていきたいです。
- という内容のもので自身の成長と意欲を語るものだった。

4 まとめ

この特別講座は夏季休業中の 4 日間、1 限から 4 限まで行われ、21 名全員が参加した。また学生によっては各日の終了後に大学に残って遅くまで実技の練習をしたものもいた。このことは学生の学習意欲を喚起したといえる。そして、このような学生の個々の努力により講座の目標である、全員の日商 PC 検定試験 3 級の全科目合格を達成することができた。さらに、この特別講座を通じて、学生自身の中に社会人基礎力の一部である「主体性」「実行力」「計画力」を養えたことは、本特別講座の大きな成果といえる。これは、塩川・長谷部（参考文献 2）の指摘する学習意欲の内実を明かしたものといえる。

また、学生は資格を取得することで、その資格の保証するスキルを手に入れたいと思っていることが、アンケートの結果から判明した。加えて、資格の取得ができることなら希望の職を得て栄達することにも期待していることもわかる。しかしながら、一般的な企業への就職においてほとんどの資格が就職するための条件となることもないし、資格の取得だけで就職活動に有利に働くということもないようである。我々大学教員が、それでも学生に資格取得を勧奨するのは、その資格を取得することで獲得されたことが保証されるスキルもさることながら、その目標に向かって努力し続けることによって得られる態度や姿勢の普遍化であり、恒常化である。それは、経済産業省により策定された社会人基礎力に重なる部分がある。ただ、このようなことは学生の中には明確な形をとって意識されることでもないように思われる。アンケートを採ることで、学生に

振り返りの機会を与え、この講座を通して得たことがスキルの獲得だけではないということを明確に示すことは重要である。そのことも、今回のアンケートの結果から、達成できたものと思える。

「ニーズ」と「シーズ」ということが新しい商品やサービスを企画する際の視点として取り上げられる。資格取得ということについては、学生が自らのキャリアアップを考える際に求めるものであり「ニーズ」といえる。学生は資格を取得することで、自らに自信を深めるものと思われる。また、資格を取得するために努力するということが、大学生生活を充実させることにつながる。資格取得のための教育は、このような価値、いわば「シーズ」を持つといえる。どのような資格でも、もちろん良いわけではないが、学生にとって到達可能であり、ディプロマポリシーやカリキュラムポリシーに十分位置づけ可能な資格を厳選することは大学に求められることである。そうすることで、大学生生活に意義を見出せないと思込んでいる学生を減らすことも出来るし、またある資格の取得をきっかけとして、より高度の資格の取得を志すような学生も現れるものと思われる。このような機会や資格取得のロードマップを用意し、そのもとで学生をサポートすることは、大学のキャリア教育の中ではますます求められるものと思われる。

参考文献

1. 六車正章, 大学における資格の単位認定の現状 — 全国大学調査の集計・分析から —, 大学評価・学位研究第2号, 2005年3月.
2. 塩川茂樹, 長谷部正孝, 大学が考える学生の資格取得, 電子情報通信学会 通信ソサイエティマガジン, 電子情報通信学会, 11巻第4号, p.264-267.
3. 経済産業省, 社会人基礎力, <https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>, 最終閲覧日 2022年12月4日.
4. 経済産業省, 「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」報告書. https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/data/pdf/20180319001_1.pdf, 最終閲覧日 2022年12月4日.
5. 樋口耕一, KH Coder, <https://kncoder.net/>, 最終閲覧日 2022年12月4日.
6. 樋口耕一, 社会調査のための計量テキスト分析, ナカニシヤ出版, 2018年12月10日.
7. 末吉美喜, テキストマイニング入門, オーム社, 2021年6月10日.
8. 中島禎志, 栗田るみ子, 基礎的な資格試験の受検対策によって養われる社会人基礎力, 城西大学教職課程センター紀要, 第5号, p.65-72, 2021年3月.
9. 中島禎志, 栗田るみ子, コロナ禍で発展した社会人基礎力, 城西大学経営紀要, 18巻, p.105-121, 2022年3月.

The Research on the Relationship between Career Education and Qualification Education

Tadashi Nakajima
Rumiko Kurita

Abstract

Since the establishment of the faculty of Management at Josai University, as part of its career education, the faculty of Management has held a course on the Nissho PC Certification Test during long vacations. In this paper, we analyzed the significance of holding such a course through a questionnaire to participating students. The analysis was conducted in light of “the fundamental skills of a working adult” formulated by the Ministry of Economy, Trade and Industry.

Keywords: the fundamental skills of a working adult, career education, qualification education